



自分の返せる範囲を
把握した上で、
クレジットやローンを
利用することが大切。

カードで手軽にクレジットやローンが利用できる便利な時代。自分の支払い能力を超えたクレジットやキャッシング利用で、多重債務におちいる人が増え、社会問題になっています。多重債務にならないためには日頃のお金の管理が大事という日本クレジットカウンセリング協会の山岸親雄さんに、多重債務などの現状と、クレジット、ローンの賢い利用法についてお話を伺いました。

多重債務におちいる理由に、生活費をあげる人が増えている

当協会では、無料でクレジットや消費者ローンなどの返済で困っている個人からの電話での相談に応じて、アドバイスをしたり、直接面談をしてカウンセリングを行っています。カウンセリングを受けた方のうち、返済意欲があり3年程度の分割にすれば返済が可能などの要件を満たす人には、債務を整理して弁済する「任意整理」の弁済計画を立てるお手伝いをしています。ただ、「個人再生」などの他の方法が適当な人や、「自己破産」

の手続きが必要な人達については、弁護士会などを紹介するしくみになっています。

ですから、これからお話しするデータは、当協会でのカウンセリングを受けた人の数値となります。

まず、カウンセリングを行った件数を見ますと、平成14年度では1,085件で、これは過去最高の件数です。

カウンセリングを行った人の年齢層は20～30歳代が半数以上を占めます。20歳代の割合は減少傾向にあったのですが、ここ2、3年は増加傾向にあることが気がかりです。

profile

財団法人
日本クレジットカウンセリング
協会専務理事
山岸親雄さん
(やまぎし・ちかお)

千葉県出身。横浜市立大学商学部、中央大学法学部卒業。行政管理庁(現総務省)に入る。北海道・東北・関東管区行政監察局長として、「行政相談」の運営などにあたる。2002年5月から現職。

ホームページアドレス
<http://www.jcca-f.or.jp>

協会刊行物紹介



『クレジットを利用するあなたへ』
多重債務者にならないために、クレジットやキャッシングを利用する際の注意点を、マンガで分かりやすく解説しています。

この刊行物の請求・お問い合わせは
TEL : 03-3226-0140 または
E-mail : bureau@jcca-f.or.jp

40歳代、50歳代は逆の傾向にあります。

また、多重債務におちいった理由に、生活費に使ったという人が増えていることも特徴です。平成9年までは、遊興・飲食・交際費が理由の1位だったのですが、それ以降は逆転し、平成14年度には生活費をあげた人が約5割を占め、遊興・飲食・交際費が約3割、収入減少・失業・倒産が約2割と続いています。(複数回答)

収入から支出を引いた 余裕金の範囲内で返せるような 利用計画を立てる

カウンセリングを受けた人の債務の内訳は、ショッピングやサービスなどの後払いをするクレジットが2割で、クレジット会社や消費者金融会社などからのキャッシングが8割です。平均して約9カ所から、約413万円の負債を抱えています。

もちろん、一気に多重債務になる

ことはありません。最初は、遊興費が少し足りないから、あるいは、大きな買物をしてしまい生活費が足りなくなったからキャッシングをすることがきっかけとなります。こちらで20万円、あちらで30万円と借りてしまい、それが積み重なって多重債務という結果になってしまうのです。

こういうことにならないために、クレジットやローンは、自分の返せる範囲を理解した上で利用することが大原則だと思います。

返せる範囲というのは、収入から支出を引いて、その上で余裕がある金額のことです。収入が多くても支出が多ければ、余裕金は少なくなりますから、自分にどれくらい余裕があるのかをきちんと把握し、その金額内で返せるような利用計画を立てることが大切です。ボーナスは変動が大きいのであてにしない計画がベターです。